

## 【他誌発表論文(所員が First Author)】

### 愛媛県東温市上林地区の棚田

村上 裕

愛媛県東温市上林地区は、石鎚山に連なる山間部の棚田で、昭和 63 年から平成 8 年にかけて、農地の生産性向上と省力化を目的に圃場整備が行われた。これにより、かつての不整形な水田が整備され、近代的な農業が進む一方で、生物多様性の保全に貢献する独自の要素が残された。特に、トノサマガエルの生息地として注目されており、山間部の水田は長期間の湛水により繁殖場所として機能している。また、用水路の改良や水温の確保が両生類や水生昆虫の避難場所として非意図的に作用していた。これらの取り組みが評価され、上林地区は環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」(重要里地里山 500)に選定され、地域の生物多様性が次世代に引き継がれることが期待されている。

棚田学会通信 第 75 号

(2 市 2 町)の計 9 市町で記録されていた。今回、新たに東温市と西条市で確認されたため、ここに報告する。

南予生物フィールドノート (2025):25005

### 瀬戸内海島嶼部におけるヤンバルトサカヤスデの記録

原 有助, 松岡基憲, 村上 裕

ヤンバルトサカヤスデは体長 35mm ほどの外来種で、台湾原産とされている。本種の生態は 1 年 1 世代型で有機質に富んだ湿った土壌で生活し大量発生することが知られている。そのため、不快害虫として環境省により「その他の総合対策外来種」に選定されている。国内では関東以西の 1 都(島嶼部含む) 15 県で確認されており、今回、愛媛県松山市の島嶼部において新たに確認された。県内の初記録は 2022 年の江口による宇和島市のものが該当するが、瀬戸内海側からの記録は国内初となるため、ここに報告する。

南予生物フィールドノート (2025):25006

### 愛媛県におけるクロヒメアリの追加記録

原 有助, 松岡基憲, 村上 裕

クロヒメアリは体長 1.5mm ほどの外来種で、熱帯アジア原産の人為的移入種とされている。国内では本州、四国、九州および南西諸島で確認されており、2015 年に侵入した東京都では、急速に分布を拡大していることから家屋害虫化が懸念されている。愛媛県ではこれまでに松山市と今治市で記録されており、新たに大洲市で確認されたため、ここに報告する。

南予生物フィールドノート (2025):25004

### 愛媛県におけるマルチビゲンゴロウの追加記録

原 有助, 松岡基憲, 村上 裕

マルチビゲンゴロウは体長 2mm ほどの小型種で、環境省および愛媛県レッドリストで準絶滅危惧種に指定されている。国内からは本州、四国、九州および隠岐で確認されており、愛媛県では東予(2 市)、中予(2 市 1 町)、南予